令和８年度第１回埼玉医科大学病院医療安全業務監査委員会監査報告書

１．日　　時：令和８年９月 10 日（木）17：00～19：00
２．場　　所：毛呂山キャンパス本部棟２階会議室
３．外部監査委員：小松康宏　委員長（東京女子医科大学医学部医療安全科特任教授）※
森本義博（小川赤十字病院名誉院長）※
水谷　渉（駒込たつき法律事務所）※
栗田　博（元毛呂山町教育委員会教育長）
丸山元孝（丸山内科クリニック院長）※
荒井有美（北里大学病院医療安全推進室副室長）※
内部監査委員：高沢信也（埼玉医科大学内部監査室長）
監査管理者：篠塚　望（埼玉医科大学病院長）
（※WEB による参加）
４．議　　事
（１）前回議事録の確認
（２）各部門からの活動報告と質疑応答
ア．医療安全部門
a.　医療安全に関する職員研修
b.　医療安全に係わる院内ラウンド実施状況の結果に伴う取り組みと改善状況
c.　インシデント・アクシデント報告 件数・内容・再発防止策の立案と検討
d.　研修医へのインシデント報告・取組
e.　診療基本マニュアルの整備
f.　診療基本マニュアル主な改訂点
g.　死亡事例報告について（上半期）
h.　病院等において把握すべき重大事象の類型化への対応について
i.　現在改善に取り組んでいる内容
j.　院内広報誌、ホームページの更新
イ．医薬品安全管理部門
a.　医薬品安全管理に関する委員会の実施状況
b.　医薬品安全管理手順書の改訂
c.　周知方法・理解度
d.　薬剤部主催のセミナーや職員向け研修会などの開催
ウ．医療機器安全管理部門
a.　委員会実施・職員への研修開催内容
b.　保守点検状況
c.　新規導入医療機器実績・研修実施状況
d.　前回報告の機器不具合について、その後の対応
エ．医療放射線安全管理部門
a.　医療放射線安全管理小委員会及び職員への研修開催内容
b.　インシデント・アクシデントについて

c. 被ばく相談実績報告

オ. 高難度新規医療技術等

a. 委員会の開催状況・症例報告（特異事例含む）

b. 前回からの申請症例一覧（該当する医療技術ならびにその後の経過等）及び申請症例数の年次推移

c. 事故報告の有無・件数

カ. 未承認新規医薬品等

a. 委員会の開催状況・症例報告（特異事例含む）

b. 未承認新規医薬品等申請一覧（適応外）

c. 事故報告の有無・件数

キ. インフォームド・コンセント

a. 委員会の開催状況・報告件数

b. 評価・報告スキーム

c. IC 記載テンプレートの使用率と IC の適正な取得状況の推移

d. IC 実施状況（鎮静）

e. IC 記録テンプレートの項目別記入率

f. 同意説明文書の院内統一書式の同意の自由欄へのセカンドオピニオンの説明の追記

g. 同意説明文書の申請と承認の手順書の作成

h. 今後の課題

（3）総　　評

（ア）小松委員長総評、各部門の管理責任者からの報告に対し謝意が示された。埼玉医科大学病院の医療安全に係わる体制並びに業務の状況について報告を受け各部門において適正に医療安全の業務が遂行されている事が確認できた。特に、世界的に問題視されている生体情報モニタのアラーム疲労に対する組織的・体系的な取り組みや QI 活動、的確な病院ラウンド、先進的で高く評価できるインフォームド・コンセントへの取り組みなど、他機関の参考となる優良事例が確認された。全体として非常に高い水準の医療安全管理が行われていると評価された。

次回の報告にあたり、以下の 2 点について依頼がなされた。

1. 病棟ラウンドの未達成部署への対応：元来のレベルをさらに向上させるため、未達成部署に対してどのようなアセスメントおよび改善を行ったか報告すること。

2. 特定機能病院の類型化への対応：厚生労働省より通達された「A 類型」「B 類型」に関し、病院として把握する潜在的リスク事例への注意・改善は重要である一方、報告時には誤解を招かない適切な提示方法とすること。

最後に、外部監査委員からは、「医療安全は非常に複雑で終わりのない旅である。その中で継続的に医療安全を進めていることを高く評価したい」との見解が述べられた。

（4）次回開催予定

次回開催は、令和 9 年 3 月予定

以上